



西尾いきものふれあいの里だより

1月号

2024.1.1 発行

# さとやま

## 1月の里といきもの



昨年の12月は、最高気温が20℃近い日もあれば、真冬並みの寒気がやってきたりと気温が乱高下しました。この冬は、暖冬が予想されていましたが、この後はどうなるのでしょうか。暖冬だから、雪が少ないのかと思いがちですが、冬型の気圧配置が弱くなるため、日本海側の雪は少なくなります。日本付近を低気圧が通りやすくなり、太平洋側に雪が降りやすくなります。もしかしたら、こんな雪景色が見られるかもしれません。

### 冬、里ではこんな小鳥の群れを見ることができます

小鳥たちは、繁殖期はつがいやなわばりをつくり生活しますが、冬になると群れを作るものがあります。群れることで、天敵を素早く見つけて逃げたり、食べ物を見つけやすくなるなどの利点があります。

里でよく見られるのは、**シジュウカラ**や、**メジロ**の群れです。シジュウカラはスズメくらい大きさで、白いほほと、お腹のネクタイのような黒い帯で見分けることができます。雑食で、果実・種子・昆虫などを好みます。



シジュウカラ





メジロは、スズメよりも小さくて、緑がかった背と、眼の周囲の白いリングで見分けることができます。雑食で、特に花の蜜や果実を好みます。

この2種類は、ときには混群を作って移動し、写真のようにハゼノキの実などを食べています。ハゼノキの実は和ろうそくの原料になるほど高カロリーの脂肪分があるため、鳥たちにとってはごちそうです。

その群れの中には、時々他の鳥が混じっていることもあります。ヤマガラは、シジュウカラと同じカラ類の仲間で、大きさもシジュウカラと同じくらいです。背と腹が赤いことで見分けられます。雑食で、果実・種子・昆虫などを好みます。

コゲラはスズメくらいの大きさの、日本で一番小さいキツツキの仲間です。オスは後頭部に赤い斑があるので、写真はメスのようです。小鳥の群れの中で「ギー、ギー」という鳴き声がしたら探してみてください。木の幹に平行にとまって、登って行く姿を見つけることができます。虫が好物ですが、木の実も食べることがあるようです。



他にも、スズメより小さく尾が長いエナガを見つけることもあります。写真は5月頃のもので、最近北海道のシマエナガがブームですが、これはエナガの亜種です。雑食で、昆虫類や木の実、草の種子のほか、樹液を吸うこともあるようです。

こうした小鳥の群れは人が歩く速さくらいで、少しずつ移動していきます。いなくなっても、ハゼノキの下でしばらく待っているとまた他の群れがやってきます。



他にも、夏は大陸で暮らし、日本に渡り越冬している鳥の姿が見られます



ツグミ



シロハラ



ジョウビタキ

**ツグミ**は体長 24 cmほどの大きめの鳥です。目の上に白い眉のような斑があることで見分けられます。あちこちで見られ、「クワッ、クワッ、クワッ」や「クィクィクィ」という鳴き声もよく聞かれます。夏になると声が聞こえなくなることから名が付いたと言われていました。田んぼなどでちょこちょこ進んでは止まるという「だるまさんが転んだ」のような動きをするので、遠くからでもよくわかります。

**シロハラ**はツグミと大きさや食性が似ていますが、数は少ないようです。腹の部分が白いで名が付きました。

**ジョウビタキ**はスズメくらいの大きさで、雄は鮮やかなオレンジ色ですが雌は褐色です。どちらも翼に紋付のような白い斑点があり、「おじぎ」のような仕草をします。縄張り意識が強く、ガラスに映った自分の姿を攻撃することがあります。

## 1月はこんな生きものも見られます

センターのトイレの裏では、**シャシャンボ**の実が熟しています。ブルーベリーの仲間なので、食べることができます。

小草池横の道の私有地側では、**クチナシ**の実が色づいています。昔から、染料として利用され、おせち料理の栗きんとんなど、食品にも使えます。

アメリカイヌホオズキは外来種ですが、在来種のイヌホオズキは里では見つけられません。在来種に比べ、実が一点から出ているように見えたり、光沢があることで見分けられます。イヌホオズキの仲間は全草が有毒なので、注意しましょう。



シャシャンボ



クチナシ



アメリカイヌホオズキ



スイセン



ヤブツバキ



フデリンドウ

**スイセン**は、花が少ない冬から春にかけて咲くので、よく植えられています。里でも姿が見られます。これも有毒なので、飾るときには注意が必要です。

**ヤブツバキ**はビオトープ付近で見られます。早春の花ですが、暖かいと冬でも花が咲きます。虫の少ない時期に、メジロなどの鳥に花粉を運んでもらうためつ、くりが丈夫で、花の後花弁と雄しべがつながったまま散るのため、花ごと落ちているように見えます。

万灯山山頂付近では、**フデリンドウ**が寒さに耐えて春を待つ姿が見られます。

冬の1日、こんないきものたちを探して、里を散策してみてください。

## 12月の行事紹介



「自然の素材でクリスマスリースを作ろう」の講座を12月3日(日)に開催しました。

最初にクリスマスリースの作り方の話を聞いた後、里山にリース作りの材料集めに出発。講師から植物の名前や特性を教えられながら木の実などを採取しました。講師が用意したクズのつるをくるくると丸めてリースの土台にし、用意された材料や採取してきた木の実、杉の葉などを親子で飾りつけし、素敵なクリスマスリースが完成しました。とても楽しい時間になりました。

## 1月の行事予定

14日(日)	花炭を飾ろう	20名	AM9:30~11:30	山口 信夫
内容 ~ 花炭は「飾り炭」ともいい、木の実や葉などそれぞれの形をそのまま残して炭にしたものです。炭なので脱臭効果もある素敵なインテリアになります。				
28日(日)	里山で野鳥を観察しよう	20名	AM9:30~11:30	高田 俊洋
内容 ~ 冬の里山で野鳥を観察します。北から渡ってきたカモの仲間を中心に里で冬を過ごす小鳥に注目してみましよう。しっかりと防寒対策をしてお越しください。				

## 2月の行事予定

※2回以上受講した方には、「竹炭」をプレゼントします！

10日(土)	竹炭焼きを体験してみませんか。Ⅰ (竹切り・竹割り・窯入れ)	20名	AM9:00~11:00	神本 晃 河野 俊治
11日(日)	竹炭焼きを体験してみませんか。Ⅱ (窯炊き)	20名	AM9:00~11:00 (午後も参加可能)	
18日(日)	竹炭焼きを体験してみませんか。Ⅲ (窯出し)	20名	AM9:00~11:00	

内容 ~ 1日目は、里山の竹林の間引きを行いながら竹切りし、窯に入れる大きさに竹を切って、窯に詰めます。2日目は、窯に火を入れ、火を絶やさないように約7時間焼きます。3日目は、1週間経過したので窯出しします。新調した炭焼窯で、どんな竹炭ができるか期待しよう！

- ◇ **参加受付**は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順に受け付け、来園、または電話受付し、お申込みは本人、もしくはその同居家族までとします。なお、申込者が**4名以下**の場合は開講しません。
- ◇ **参加申込者**は傷害保険に加入するため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学扱い」とし、傷害保険の加入はありません。
- ◇ **当日の天候**により、講座の中止・延期、または講座の内容を変更する場合があります。
- ◇ 原則、**参加費は無料**ですが、講座により**材料費は実費**を申し受けます。[講師に直接払う]
- ◇ **各講座の詳細な内容**については、直接ネイチャーセンターにご確認ください。

## 西尾いきものふれあいの里ネイチャーセンター

- ◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266
- ◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始 [12/28~1/4] ◆発行 西尾市環境部 環境保全課